令和7年度 第2回 旭地域会議 会議録

■日 時 令和7年5月8日(木) 午後7時00分～午後8時45分

■場 所 旭支所2階 第1会議室

■出席者

<委員13名>

板倉小夜子(会長)、稲垣雅子(副会長)、安藤孝之、伊藤和夫、伊藤圭一、大塚昌義
鈴木雄也、富永英明、鳥居信宏、成瀬初恵、増田尚子、柳井清一郎、渡邊さとみ

<事務局>

杉本憲彦(支所長)、児嶋勇吾(副支所長)、岡本拓也(担当長)、山本悟(主査)
平井一輝(主事)

<傍聴人2名>

1 開 会

2 会長あいさつ

3 協議事項

(1) 後期集落ビジョンの作成について

4 グループディスカッション

(1) 豊田市の森林計画について ～豊田市の森づくりの現在地～

(2) グループディスカッション

5 連絡事項

6 支所長あいさつ

7 閉会

【内容】（要約）

1 開 会

2 会長あいさつ

3 協議事項

前回の会議のまとめを、資料1に基づき副会長が説明
〈意見・質問等〉
意見等なし。

(1) 後期集落ビジョンの作成について

資料2に基づき、事務局が説明
〈主な意見〉

- ・これまで通り各町内会で作成してもらうのがよい。
- ・町内の人が集まって話し合いの機会を持つことが大切だと思う。
- ・一律に作ると決めずに、作るも作らないも町内会に決めてもらえばよいのではないか。

→地域会議としては

「後期集落ビジョンを町内会ごとに作ってもらいたい。それに対して町内会でどのような議論になったかを知りたい」

→6月の区長会で説明

4 グループディスカッション

(1) 豊田市の森林計画について ～豊田市の森づくりの現在地～
杉本（支所長）が説明

(2) グループディスカッション

2班に分かれてディスカッションを行い、班ごとに発表
〈主な意見・質問〉

- ・伐採した木を山に放置すると、新しく植林ができないのではないかと？
→間伐は植林しない。切置き間伐は、日照が改善し、自然に草木が生えて土壌が改善することが目的。
- ・人工林の健全化、自然の山に戻すとはどういうことか？
→人工林は畑と同じで人が手入れしなければならぬ。人工林の健全化は、間伐により人工林の持つ公益的機能を回復させること。自然の山は人の手が入らなくても維持される。間伐を進めることで自然の木が増え、自然の山に近づけていくこと。
- ・伐採が進めば獣害問題も解決していくのか？
→森林の整備だけではなく、いろんな要因があるので一概には言えない。
- ・旭で過密人工林がそんなに減っているとは思わなかった。
- ・間伐が進んでいない地区もあるのではないかと？
→公図に問題があったり、所有者の多くが不在であったり、団地化が困難な地区が旭にはある。区域の土地所有者全員から間伐の同意を取り、境界確認をせずに間伐を進める方法や地籍調査を先に進めて境界を確認するなど団地化以外の方法を検討中。
- ・土壌汚染をするような使い方をする人が買ったり活用したりすることを止める術（法律）

がない。

・伐採を進めると、(残された)木が大きくなって、日照が悪くなるのでは？

→森林課では、山全体を健全化するための間伐を進めている。一方で、人里に近いところでは違った手入れする必要があると思う。

5 連絡事項

6 支所長あいさつ

7 閉会

— 午後8時45分 令和7年度 第2回 旭地域会議終了 —

以上